2010年12月5日　待降節第2主日

イザヤ 11:1-10　　ロマ 15:4-13　マタイ 3：1-12

★今週の聖句

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」
マタイによる福音書　3：12

★　ねらい

洗礼者ヨハネは、イエス様より半年早く生まれ、生涯イエス様を指し示し続けた。人々が救い主を迎える準備をするための役割を担った。私たちもヨハネと同じように主を指し示していきたい。

★　説教作成のヒント

今日の箇所は三部構成といわれる。

- ヨハネの宣教を聖書の言葉で基礎付けた（1―3節）
- 彼の姿やその洗礼の様子を記述（4―6節）
- 裁きについてのヨハネの説教（7―12節）

★　豆知識

- 上右の作品は、近代彫刻の父”と呼ばれるオーギュスト・ロダン（1840-1917）の説教をする洗礼者ヨハネ像。
- 洗礼者ヨハネは「『悔い改めよ。天の国は近づいた』と言った。」(3:2)。「悔い改め」とは日本語で「回る心」と書き、「改心」ではないことに留意。神さまに背を向けていた人が、180度神さまに向き直るという意。
- 「クリスマス」は英語の「Christmas」で、語源は「キリストのミサ」(″Christ's Mass″ Christ + Mass)。

★説教

皆さんは彫刻家のロダンという人を知っていますか。「考える人」の像がよく知られています。彼は今日の福音書に登場した「洗礼者ヨハネ」（説教をしている所といわれる）も彫刻にしました（上図参照）。その彫刻は、「考える人」のように男性的な体の引き締まった像です。しかしその特徴は、解剖学の見地から計測、分析したところ、体の前でＶの字に屈折している腕が異常に長く、伸ばすと膝まであります。さらに左足が右足より長く作られていることから、一般的に人間ではありえない長さです。あえてそのように造ることで、手や足が動いて見えるかのような躍動感を生み出しているのです。このようにロダンの洗礼者ヨハネに対する強調点は、彼がイエス様のことを力強く宣べ伝え「悔い改めよ。天の国は近づいた」と、皆に語り継いだことを伝えたかったのでしょう。

洗礼者ヨハネは、イエス様より半年早く生まれ、生涯、イエス様を指し示しつつ、人々が救い主を迎える準備をするための役割を担いました。彼が登場してくる場所は草木のない砂漠のような場所、「荒野」でした。「荒野」と聞いて皆さんは何を想像しますか。現代を荒涼とした時代で荒れ果てているということも想像出来ますし、私たちの心が荒(すさ)んでいる、ともいえます。そこに、彼の「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」という言葉が響くのです。

洗礼者ヨハネはイエス様を「待つ人」としての苦しさを知り、それに耐えました。自分の短い一生

が、ただ短かっただけでなく、全く無意味であったかもしれない悲しみを思いながらも生き続けた生涯でした。けれどもイエス様を指し示すことで、彼のこの世での生は十分に神さまから用いられたのです。

私たちはどうでしょう。私たちが洗礼者ヨハネの言葉どおり、正直に自分の罪（自己中心的、絶えざる自己正当化／by ルター）を認めて悔い改める時、主の道は整い、クリスマスが来る道筋がまっすぐなものに変えられるのかもしれません。キリストの救いであるクリスマス（直訳「キリストの礼拝」の意）が私たちにダイレクトにやってくるのです。私たちも洗礼者ヨハネの声を聞き、主を指し示しながら、クリスマスまであと２週間「悔い改めにふさわしい実を結」ぶごとく、歩んでまいりましょう。

★分級への展開

さんびしよう　　＊讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□５７番
□改訂６５番

話してみよう

「まっすぐの道」はどんな道？
平野のあるところには、まっすぐの道がありますが、砂漠や山岳地帯ではどうでしょう。
・山をけずり、谷をうずめて平らにします。

「心の道」はどうしますか？
・（谷）悲しいこと、苦しいこと、困っていること、なまけていること……
・（山）うぬぼれ、とよがり、わがまま、自分勝手、いじめっこ……
・相手の気持ちを少しでも分かってあげる。どんな人でも、一緒にイエスさまをお迎えできるように。

やってみよう

Ａ４白紙クラス人数分

縦一列につなぐ。一番上に＋（十字架）をかき、下から＋（十字架）に向かって、まっすぐの道を皆で書き上げる。

2010年12月12日　待降節第3主日

イザヤ7：10－14　ロマ1:1－7　マタイ1：18－23

★暗唱聖句

マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。 **マタイによる福音書　1章21節**

★ねらい

・ 主の天使が夢でヨセフに語った「恐れるな」(1:20)、「神は我々と共におられる」(1:23) というみ言葉は、このクリスマス、私たちにも語られている。

★説教作成のヒント

・ 『サンタクロースの謎』(講談社α新書)、『クリスマスの風景－現代人のためのメッセージ－』(キリスト新聞社／いずれも賀来周一著) を参照し、小学生高学年を対象にした。

★豆知識

・ ルカはマリアに焦点をあてて描くが、マタイのクリスマスはヨセフに的がしぼられている。
・ このアドヴェントから1年間マタイによる福音書 (A年) を読む。「神は我々と共におられる」とは28章からなるマタイを最初から最後まで一貫して貫いているテーマ。「あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:20)。
・ 当時の婚約は今の結婚にあたるものだったと考えてよい。
・ 「神は、イエス・キリストによって、永遠に罪人と共にあることを決意された」(K・バルト)。

★説教

ヨセフはマリアと婚約をして幸せでした。けれども、彼はとんでもない出来事にまきこまれてしまいます。マリアが訳のはっきりしない不明の理由で身ごもったというのです。ヨセフとしては、思いたくもないマリアの「姦淫の罪」が頭をよぎります。彼女に裏切られた！その思いはどんなにヨセフを苦しめたことでしょう。姦淫の罪は法廷に問われれば石打ちの極刑になります。でも、愛を誓い合ったマリアを死に追いやることがどうしてできるでしょう。ヨセフは彼の「正しさ」から一つの道を選ぼうとしました。それはマリアを去らせ、離縁することです。彼女をさらし者にしたくない。離縁の道は法廷を避けて「ひそかに」ふたりの証人の前で離縁状と手切れ金を与えれば済む。それはマリアを愛したヨセフの「正しさ」からくる最大の思いやりでした。

けれども、ヨセフが決して偉大なのではありません。彼の葛藤の中では、迷わざるを得なかったのです。愛するマリアにもそのことは痛いほど分ったでしょう。相手を必死に思いやるやさしさ。「正しい」とは何か？律法を守ろうとする人間の「正しさ」の限界です。

しかし、そこに、「恐れるな。」という天使の声が響きます。これが人間の限界を超えたところに与えられる神さまの言葉、福音です。この神さまからの働きかけによって事態は動いていきます。ヨセフの人間的「正しさ」を打ち破り、神さまのみ言葉への信頼によって与えられる「新しい義しさ」に彼らは生き始めることになるのです――。

手におえない出来事、マリアへの疑い、「正しい自分」が崩れる、そうしたものを超えて、彼はマリアの特別な選び、彼女に対する神さまの恵みの計画、そして「ダビデの子ヨセフよ」との呼びかけによる神さまの約束、これらの重さに打ちのめされながら、今日の箇所の後すぐ夢から目覚めます。そして彼は「恐れず妻マリアを迎え入れなさい。」(1:20) のみ言葉どおり彼女を受け入れました。

私たちは今日のヨセフとマリアの出来事を見過ごしてはならないと思います。彼は人間的な判断

「正しさ」の中で一生懸命生きました。しかし行き詰まりがありました。その時、神さまの声を聞くのです。世界で最初のクリスマスから、その後にクリスマスを体験する私たちに向けられたメッセージ。「恐れるな」（1:20）、「神は我々と共におられる」（1:23）とは、今日の私たちにも語られている神さまのみ言葉なのです。

★分級への展開

さんびしよう

＊讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

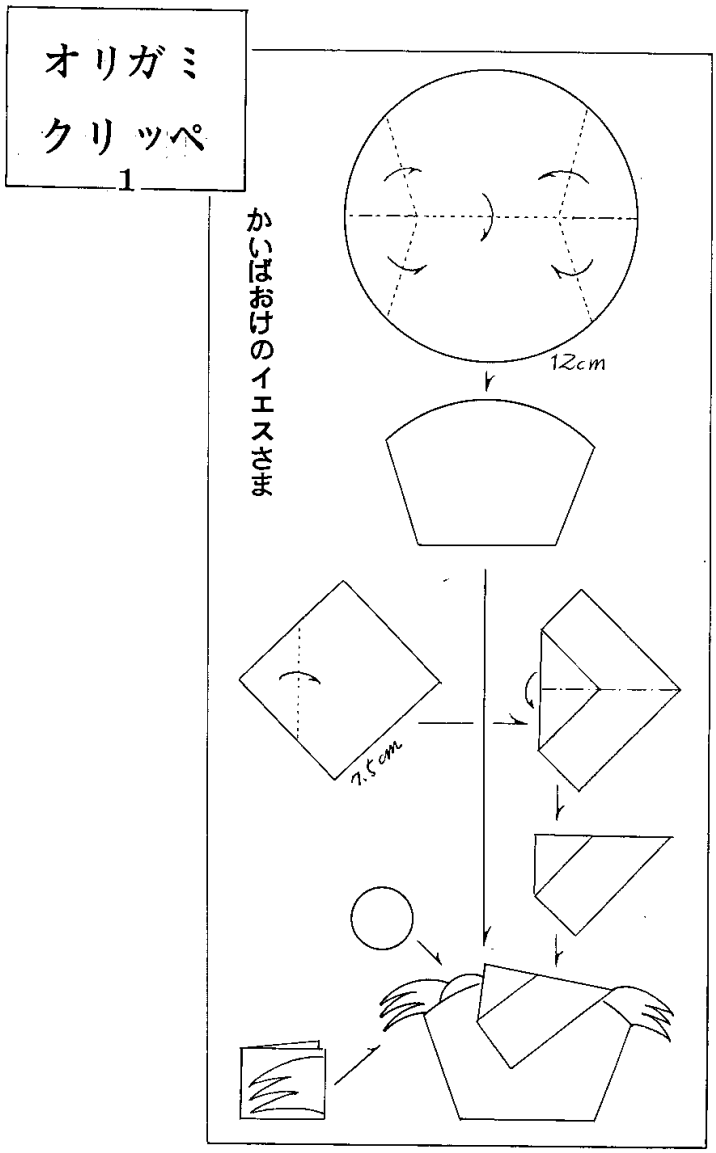
□１８番
□改訂６５番

話してみよう

イエスさまは、お生まれになったとき、産院やお家の中の暖かいお部屋ではなく、家畜小屋の中でした。そして、ベビーベッドになったのは飼葉桶（馬槽）のまぐさの中でした。いちばん貧しいお姿でのお誕生ですね。

やってみよう

おり紙を用意して「飼葉桶」のベビーベッドを作ってみよう。（オリガミクリッペ１）



2010年12月19日　待降節第4主日（12月25日　降誕祭）

イザヤ52：7－10　ヘブ1:1－9　ヨハネ1：1－14

★暗唱聖句

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。 **ヨハネによる福音書　1章14節**

★ねらい

・ 教会のクリスマスは、本当のクリスマス（「キリストの礼拝」の意）。イエス様、つまり「言（ことば）」が私たちの間にやって来られたことを共に喜び、祝おう。

★説教作成のヒント

① 初めに言（ことば）があった。⇒時間や世界のできる前、すでに初めから、神はつねにイエス・キリストのような神だった。旧約の神は怒りの神で、新約の神は愛の神という、区別はできない。

② 言（ことば）は神と共にあった。⇒イエス・キリストおひとりが神をあらわすことが出来る（1:18参照）。

③ 言（ことば）は神であった。⇒この「神」は定冠詞がついていないので、それは性質をあらわす意味になる。イエスのみ心はすなわち神のみ心、イエスを見た者は神を見たということ（14:9－10参照）。

『光は闇の中に－ヨハネ福音書講解説教－』（大串元亮著／教文館より）

・ 「★説教」のまとめである下から4行目前に、神さまに希望や力をいただいた人の例話を入れてもよいだろう。

★豆知識

・ 「言（ことば）」という字は常用漢字にない。日本語の聖書独特の読ませ方。元来「ロゴス」というギリシャ語で、理性、原理という意味がある。

・ 今日のトルコからヨーロッパにキリスト教が進出した頃、ヨハネ福音書が出来たが（紀元90～100年頃）、1人のユダヤ人に対して1万人のギリシャ人が教会にいたとされる。ヨハネ福音書の記者は、ギリシャ哲学の文化を持つ彼らに向け「原理・理性＝ロゴス」という言葉を使用した。

・ 日本のプロテスタントの教会においても、1837年に刊行されたギュツラフの「ヨハネ福音書」の「ハジマリニ　カシコイモノゴザル」はよく知られている（『新共同訳聖書』の序文より）。

★説教

今日の聖書の箇所は「初めに言（ことば）があった。」（1:1）と、始まります。ヨハネによる福音書の一番初めの部分です。漢字を習ったことのある子はすぐに気がつくと思いますが、「言（ことば）」とふりがながふってあるのはおかしいですね。学校で習う「言」の一字は「こと」とか「げん」と読み、「ことば」と読むことはありません。「ことば」は漢字で「言葉」と書きます。けれども聖書が間違って印刷されたのではありません。これは、聖書の特別な表現で、あえて「言（ことば）」と記してあるのです。いったいどんな意味があるのでしょう？じつは、イエス様のことを指しているといわれます。

ですから、「言（ことば）」の箇所に、「イエス様」と入れてみるとよく分かるのです。それから2週間前、生涯イエス様を指し示して生きた洗礼者ヨハネのお話も聞きましたね。私たちも洗礼者ヨハネのようにイエス様のことを伝えていきたい、そう思ったことでしょう。それではもう一つ、「ヨハネ」や「彼」のところにも、自分の名前（「わたし・ぼく」）を入れてみましょう。この2つのことを読み替えて、

じっさいに読んでみましょう。さらに、「光」は神さま（イエス様）のこと、「暗闇」は人間や人間の世界を現していますから、そのことも意識してみるとよいでしょう（･･･具体的にみんなで読んでみる）。

「言（ことば）」であるイエス様は、私たちの心や生活が暗くなればなるほど、私たちの間で明るく輝き、希望や力を与えてくださるのです。このメッセージは、誰にも、何にも、決して奪い取ることの出来ないものです。うれしいですね。今日私たちは、本物のクリスマス（「キリストの礼拝」の意）を共に迎え、祝うのですから。

★分級への展開

さんびしよう

＊讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

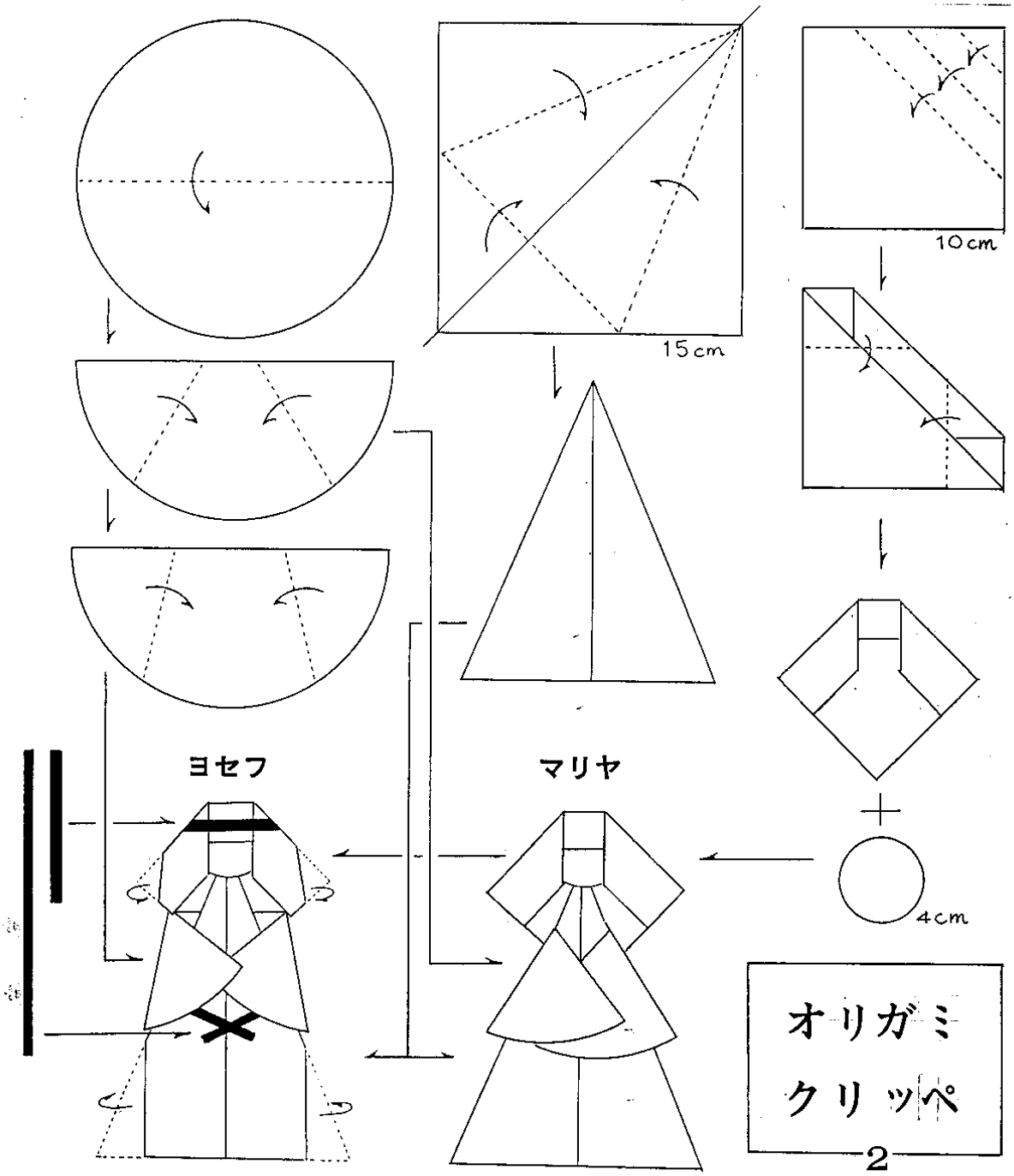
□２６番
□改訂７０番

話してみよう

・神の子イエスさま
・人の子イエスさま
・貧しい大工のヨセフさんとマリヤさん

やってみよう

先週に続いて、ベツレヘムの家畜小屋をつくってみよう。（オリガミクリッペ２）



オリガミ
クリッペ

2010 年 12 月 24 日　降誕祭

ルカ 2：1ー20

★分級への展開

さんびしよう

＊讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□２８番
□改訂６７番

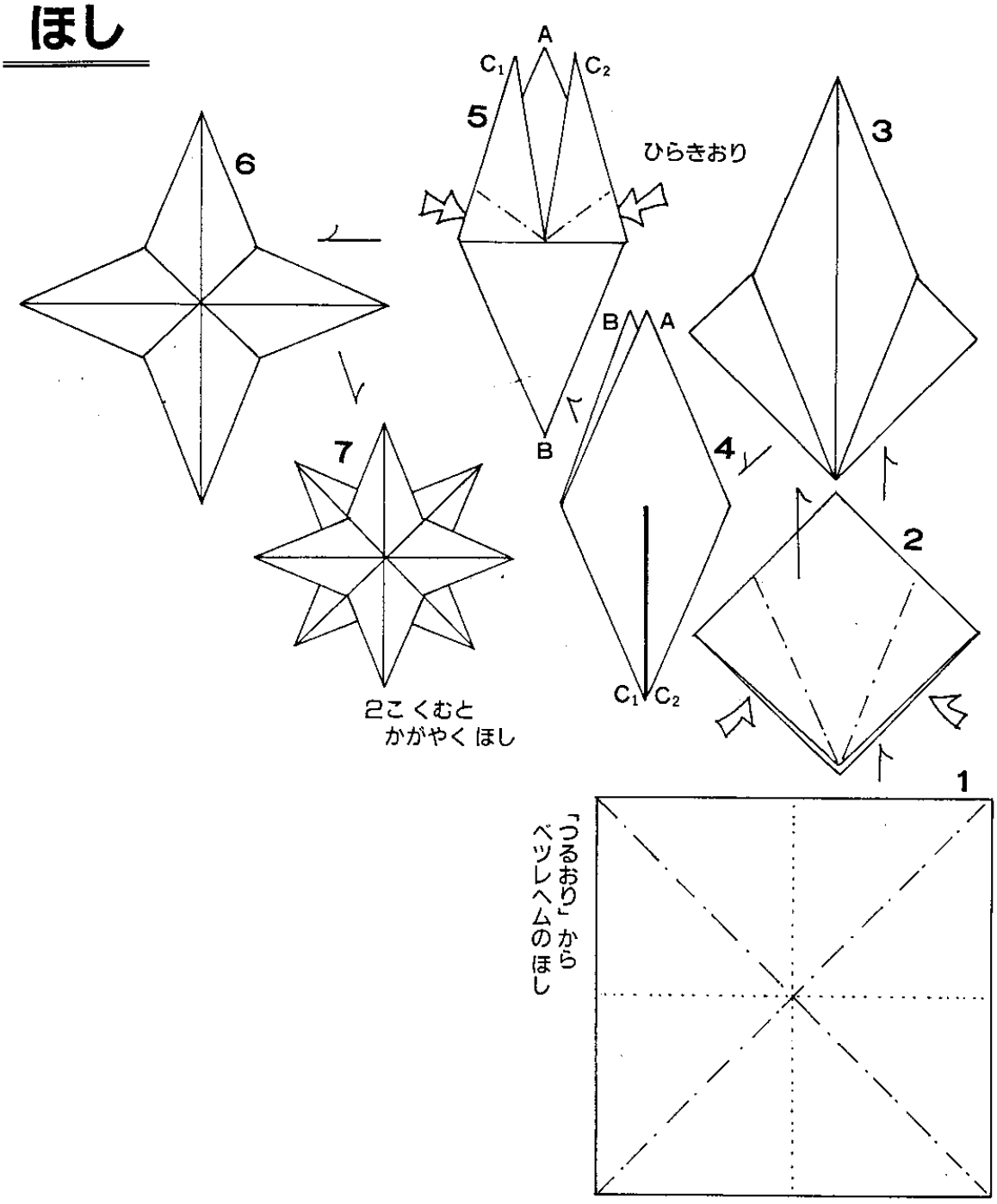
話してみよう

ー喜びを共にしようー
・小さな村の家畜小屋の中の大きな喜び
・最も貧しい羊飼いたちが一番先にお祝いした。

やってみよう

ベツレヘムの星をつくろう。（オリガミクリッペ３）

ほし



2010年12月26日　降誕後主日

イザヤ63：7－9　ガラ4:4－7　マタイ2：13－23

★暗唱聖句

ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。 **マタイによる福音書2章18節**

★ねらい

・　教会の暦では「降誕後主日」だが、日本の慣わしではクリスマスが終わり、一年の最後の日曜日を迎える。今年を振り返り、私たちが経験した不条理の中にこそ、主が共におられることを想いたい。

★　説教作成のヒント

・　聖句の恐ろしい描写を強調しすぎることのないようにしたい。
・　とってもかなしいときに一緒にいてくださるイエス様。それを思わされた出来事を、説教者の経験などを通し、子どもたちと共に考える姿勢が大切だろう。

★豆知識

・　『苦しみ』（ドロテー・ゼレ著／新教出版社）において、第二次世界大戦中のユダヤ人強制収容所の話が描かれている。収容所生活に耐え切れず脱走を図る子どもたちが捕まり、見せしめのため全員一列に並ばされ、列の端から番号を言うように命じられて5番目ごとに銃殺される。ゼレはこのような状況で「神は全能」、「神は愛」ということは通用しないと述べる。もし神がいるとすれば、その神は5番目ごとに銃殺される子どもと共に銃殺される神だ、という。「共に苦しむ神」という聖書の神概念の一つである。

★説教

先日、私たちはクリスマスを共に過ごし、そして今年最後の礼拝を迎えました。みんなはこの冬休み、どのように一年をふりかえっていますか？うれしいこと、悲しいこと、いろいろあったと思います。うれしいことは、もっとたくさんあれば良いですね。でも、私たちの周りにかなしんでいる人はいませんか。「なんで、こんなイヤなことがおこるのだろう。」「神さまはいったい何をしているのだろう。」などと、神さまに尋ねたくなることがありませんか。

今日読んだ聖書にも悲しい出来事が起こりました。クリスマスのうれしい出来事の裏で、ヘロデがベツレヘムの子どもたちを殺してしまった、という事件です。恐ろしいことです。「なぜ、どうして？」と思わずアタマを抱えて込んでしまいます。

でも、わたしたちが「なぜ、どうして？」と悩む時に一緒にいてくださるのがイエス様です。クリスマスにお生まれになったイエス様は、インマヌエル＝神は我々と共におられる、というお名前を持っていました。その名のとおり、私たちといつも一緒。それはちょうどコインの表裏のようです。かなしいことが起こった時に、その反対側でイエス様は必ずくっついていて、その痛みを感じてくださるのです。イエス様と私は切り離れてはいません。

イエス様がお生まれになった時、その難を逃れましたが、イエス様が大人になった時、何一つ悪いことをしていないのに、十字架という恐ろしい死刑の道具ではりつけにさせられます。その時イエス

様は、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ 27：46）と神さまに向い叫ばれました。それは呪いのような言葉です。イエス様にとって神さまに捨てられる覚えは何ひとつありません。なぜなら裁かれた罪はご自身の罪でなく、人の罪（私たちの罪）です。私たちの罪の身代わりに神の子が死なれたのです。こんなに悲しいことはありません。じつはイエス様が、人間の中で他の誰よりも一番かなしい思いをした、と聖書はいっているのではないでしょうか。

そうです。このイエス様が私たちと共にいてくださり、私たちの気持ちを誰よりも良く知っていてくださるのです。ですから、私たちが苦しく、かなしい時に、実は私たちよりももっと大きな声で代わりに神さまに叫びつつ、痛んでくださるのです。

今日私たちはクリスマスを終えてしみじみこの一年を思い返しますが、あの時もこの時もイエス様が一緒だったと思えることはありませんか。私たちがとってもかなしい時にこそ、決してひとりぼっちにしないイエス様。そしていつの日か必ず「なぜ、どうして？」という私たちの疑問に答えてくださいます。ですから今年一年に感謝をし、安心して新しい年を迎えましょう。主が共に。

★分級への展開

さんびしよう　　＊讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□９７番
□改訂１８番

話してみよう

・ヘロデ王はどんな人
・幼児イエスさまとマリヤとヨセフは
・エジプトへ逃れたこと
・エジプトからナザレに帰ったこと

やってみよう

画用紙に、砂漠の景色をかき、３つのピラミッドをかきいれてみよう。エジプトについて知っていることを話し合いながら…